

第2学年「国語」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○短い言葉で、自分の考えや思いを話せるようになった。
○平仮名や漢字を使って、簡単な文が書けるようになった。
○読書することが好きな児童が多く、想像を広げて物語を楽しむ児童が多い。
- 課題** ▼詳しく話すことが苦手である。また、人の話を最後までじっくりと聞くことが不十分である。
▼正しく文字や文章を書くことが定着していない児童が多い。
▼語彙量が少なく、文章の意味を理解して読むことが不十分である。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 話す事柄の順序を考えながら話したり、話し手が知らせたいことや自分が知りたいことを、聞き落とさないように集中して聞いたりする。
- ◇ 平仮名、片仮名、漢字を正しく使って、文章が書けるようにする。
- ◇ 文章の中で、自分の思いや考えを述べたり、伝えたい事柄について順序立てて書いたりできるようにする。
- ◇ 文章をよく読み、内容の大体を捉え、分かったことを説明したり、感想を伝えたりすることができる。

具体的な改善策

- 物語を読んで内容や感想を伝え合ったり、説明文を読んで分かったことや考えたことを、相手に伝わるように話したりする活動を増やす。
- 平仮名・片仮名・漢字表を活用して、児童が自ら読んだり書いたりできるようにする。
- 書こうとする題材を明確にし、書くことに必要な事柄を集める経験を多くとる。その上で、文章構成の簡単な例文（初め→中→終わり）を示し、まとまりのある文が書けるようにする。（短作文ノートを活用）
- 学校図書館を活用し、絵本や物語だけではなく、図鑑や科学的読み物などに触れ、児童の読書の幅を広げ、語彙や知識を増やしていけるようにする

達成目標

- 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。